

## 秋葉 隆先生 ご冥福をお祈りいたします

菊地 勘

医療法人社団豊済会下落合クリニック理事長

2022年に開催された第67回日本透析医学会学術集会の2日目、7月2日の昼頃、安藤亮一先生より私に電話が入りました。安藤先生の教育講演の座長であった秋葉 隆先生が、「お見えにならなかった。当日の朝にご自宅で急逝されたようだ」と伺いました。私は、突然の悲報に大変驚き、すぐにはその事実を受け入れることができませんでした。秋葉先生は、私の透析医としての目標であり師匠ですので、まだまだご指導いただきたいことが多くあり、この突然のお別れが非常に残念でした。

秋葉先生は、腎透析領域で重要な業績を多く残されており、特に感染症対策には非常に精力を注いでおられました。1999年から2021年まで、日本透析医学会の感染防止対策部会委員長を務められ、2000年には、「透析医療における標準的な透析操作と院内感染予防に関するマニュアル」を策定し、その後の改訂を経て、2015年には「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン(四訂版)」を、マニュアルからガイドラインに変更して改訂し、2020年には五訂版を策定しています。この感染対策のマニュアルおよびガイドラインは、初版から20年以上にわたり全国の透析施設で感染対策の指針として広く活用されています。

秋葉先生と私との出会いの場所は東京女子医科大学でした。東京医科歯科大学血液浄化療法部の助教授であった秋葉先生は、2001年4月に東京女子医科大学腎臓病総合医療センターの血液浄化部門の教授に就任されました。私も2001年4月に、杏林大学の第3内科(肝臓内科)から東京女子医科大学第四内科(腎臓内科)に入局しております。

そして、第四内科から透析室への配属で秋葉先生と出会い、私が前職でC型肝炎の研究していたことを知った秋葉先生は、透析患者でのC型肝炎の有病率の高さ(2001年当時は約15%)や、治療が進んでいない現状などを指導くださいました。私は秋葉先生の指導の下に、透析患者におけるC型肝炎の疫学や予後、治療方法、そして院内感染予防の研究を開始し、それは現在に至るまで継続しています。

いまでもこそ臨床研究を主体とする医師が多くいますが、秋葉先生の世代では少なかったはずですが、秋葉先生は臨床研究のデザイン、論文の読み方や論文の批判的吟味、evidence-based medicineにとっても精通しており、学会や研究会において、学術論文などについて、専門分野だけでなく、それ以外の分野でも鋭く問題点とその改善点を指摘していました。

私は秋葉先生から、透析診療についても、臨床研究についても、時には厳しく、時にはやさしく、指導していただきました。ある日、診療に没頭して研究が停滞していた私に秋葉先生は、「先生が自らの手で一生涯によくすることができる患者の数には限界がある。何千人、何万人のためになるすぐれた臨床研究を行い、その結果を論文文化して多くの患者や医療者に還元するべきだ」とご指導いただきました。秋葉先生の臨床と研究にかける情熱が感じられる言葉を頂戴し、私はとても感謝しておりますし、いまでも臨床研究を継続するモチベーションになっています。

ここに改めて、秋葉先生の弟子として、先生のご指導に感謝を申し上げます。ご生前のご功績を偲びながら、謹んで哀悼の意を表します。